（様式１）

県立牛久高等学校【総合的な探究の時間の全体計画】（令和６年度）

総合的な探究の時間の第１の目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)　探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。
(2)　実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
(3)　探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

学校の教育目標

「進路を極める牛久」、「人間性を高める牛久」、「国際社会を生きる牛久」を３つの柱とし、「チーム牛久」を掲げ教職員が一体となり、生徒が安全かつ安心して様々な教育活動に参加し、自らの意志で学び活動できる環境をつくる。

また、「学び続ける教師像」として「ともに学びともに汗を流しともに成長する」を念頭に、教育活動を計画し実践する。

進学校として生徒一人一人の進路希望の実現を目指し、国際社会に生きる豊かな人間を育成するなど、知育・徳育・体育の全人的教育を行い、地域から信頼され存在感のある学校を目指す。

さらに、教職員と生徒とのコミュニケーションを密にして連携を取り、生徒の自尊意識、自己肯定感を高め、人間関係構築力を磨く。

①ICT を活用し、学力向上と進路指導の充実を図る。
②人間性を育む指導と部活動の充実を図る。
③社会の変化に応える国際教育の充実を図る。

各学校で定める目標と育成する資質・能力

（１）日常生活や社会に目を向けることで、自ら課題を設定し、将来の進路や職業と関連させながら、深い課題意識をもつことができる。
（２）主体的に必要な情報を収集し、整理・分析するとともに、体験活動を行うことで、学びたい学問分野について、理解を深めることができる。
（３）自分の考えをまとめ、課題解決に向けた取り組みを表現、発表する中で、気付きや発見を重ね、試行錯誤することができる。

総合的な探究の時間の学習評価

・授業担当者会議で評価の観点や指導上の課題を共有する。
・集めた情報をまとめたシートや、グループ内での話し合いの際の、取り組みの様子を評価する。
・発表の準備や本番の態度に加え、それを聞く態度も評価する。
・プレゼンテーションやポスターセッションを終えての、振り返りシートや相互評価の結果を評価する。

生徒の実態

生徒の大半が大学進学を希望しており、進学への意識は高い。素直な生徒が多く、生活面での問題は少なく、穏やかな学校生活を過ごしている。学校行事には熱心に参加し、部活動加入率は約８割である。しかし学習面で積極性に欠け、能力を十分に発揮せず安易な進路決定で満足してしまう傾向が見られる。

生徒の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする生徒への指導

新入生に対しては、グループエンカウンターなどを通して、話し合いがスムーズに行える環境を整える。また、教員間で生徒の情報を共有し、必要に応じて少人数指導や個別指導を行い、探究活動を支援する。

目指す生徒の姿

主体的な課題意識をもとに、他の生徒と対話し、お互いを認め合う中で、自尊意識や自己肯定感を高め、自己の責任や役割を明確に認識することができる。

社会貢献を念頭におき、広い視野をもって、自己の目標を定め、それに向けて仲間とともに最大限の努力を継続できる。

各学校が定める内容（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題を通して育成を目指す具体的な資質・能力

１学年　感じること伝えること
（１）興味ある情報を積極的に集める。（２）協力して情報をまとめる。
（３）意見を伝えるツールを学ぶ。
地域・世界の問題
（１）課題意識を持って情報収集する。（２）情報を取捨選択する。
（３）他の意見に耳を傾ける態度を養う。
よりよい未来のために
（１）幅広く多様な情報を収集する。（２）効果的な伝え方を工夫する。
（３）新たな課題を見いだし、継続する。

２学年　SDGs と社会貢献
（１）興味・関心のあるカテゴリーの歴史や構成を調べ、理解を深める。
（２）具体的な研究内容とその成果についてまとめ、発表する。
（３）他のカテゴリーとの関連から、考えを深め、新たな視点を得る。

３学年　自己の将来像と社会貢献
（１）興味・関心のある分野で社会貢献できる学問や職業を調べ、理解を深める。
（２）具体的な研究内容とその成果についてまとめ、発表する。
（３）様々な分野との関連から、自己の将来を見つめ、深い知識を得る。

学習活動、指導方法等

・人間関係・信頼関係を構築するためのガイダンス
・人間としての在り方・生き方を考える「道徳」の授業
・葛藤が生じる中で、多面的・多角的に考察する「道徳」の授業
・キャリアガイダンス講演会、学問分野ガイダンス
・書籍や新聞などから自らの探究テーマを探す活動
・情報収集・分析スキルを身に付けるための活動
・プレゼンテーション・ポスターセッションの作成・練習・発表
・乳幼児・保育園・高齢者との交流
・小学校・中学校・特別支援学校との交流、理系研究施設訪問体験
・大学訪問交流、プレカレッジ（大学模擬講義体験）
・教育実習生やインターンシップの大学生との交流

指導体制（環境整備、家庭・地域との連携）

総合・道徳検討委員会（１２名）により活動内容や評価方法の改善に取り組む。乳幼児（赤ちゃん体験）、保育園（保育ボランティア）、小学校（絵本読み聞かせ活動、児童クラブボランティア）、中学校（ミニティーチャー活動）、特別支援学校（交流ボランティア）、大学（訪問交流、模擬講義体験、教育実習生、インターンシップ生）、牛久市、高齢者（施設ボランティア、リハビリ体操習得）との交流・連携による体験活動を実施する。